

2018年2月25日（日）

「弦楽四重奏 クラシックコンサート」

カルテット ステッラ (Quartetto Stella) による「弦楽四重奏 クラシックコンサート」をルミエール府中1階コンベンションホール飛鳥Aにて開催いたしました。

演奏席と観客席との距離が近く、サロンのような心地良い雰囲気が好評なコンサートで、今年も多くのお客様をお迎えすることができました。



今回お招きしたカルテット ステッラは、東京藝術大学1年生を中心とした学生のグループで、この演奏会が結成初のコンサートです。少し緊張している様子も見られるようでしたが、お客さまは「初々しい」「フレッシュだ」と、暖かく迎えてくださいました。



プログラム1曲目はモーツァルトの「アイネ クライネ ナハト ムジーク」。とても丁寧で優雅な演奏に、観客席からは大きな拍手が鳴りました。

前半は、クラシック以外にもピアソラのタンゴや久石譲の「いのちの名前」、リー・ハイラインの「星に願いを」など、誰もが一度は聞いたことがある親しみを持てる曲が演奏されました。



後半の演目は、ドヴォルザークの弦楽四重奏第12番「アメリカ」。四楽章で構成される聞きごたえのある作品で、黒人霊歌を取り入れた美しいメロディーも有名です。弦楽器が奏でる表情豊かな音色は、聴衆を魅了しました。

たくさんの拍手に応えてのアンコール曲は、日本の童謡「ふるさと」。情緒豊かな心和む音色でコンサートは締めくくられました。



カルテット ステッラの皆様、ありがとうございました。

「初の演奏会、とても新鮮で一生懸命さが良かったです。」「カルテット ステッラさん初演奏おめでとうございます。演奏も初々しさも素敵でした。これからも応援いたします。」など、カルテット ステッラのこれからの活躍を期待する声や、「体で音楽を感じられ、とても感動した。」など、多くの方にご満足いただけた素敵なコンサートになりました。



会場では、関連本の展示や図書館の紹介を行いました。